

ゾーベック™ エンカンティア™ SE

園芸用殺菌剤

豊かな実りにつながる新しい効き目。
2種類の有効成分で疫病・べと病と闘う！

- 2種の有効成分のはたらきで、疫病・べと病に安定した効果
- 従来の薬剤に対して感受性の低下した疫病菌・べと病菌にも有効
- 浸透移行性があるため新葉も守る
- 耐雨性に優れる
- 病原菌生活環の全ステージで優れた効果



さあ、
新しい次元へ。

園芸用殺菌剤

疫病・べと病に対するゆとりの防除効果

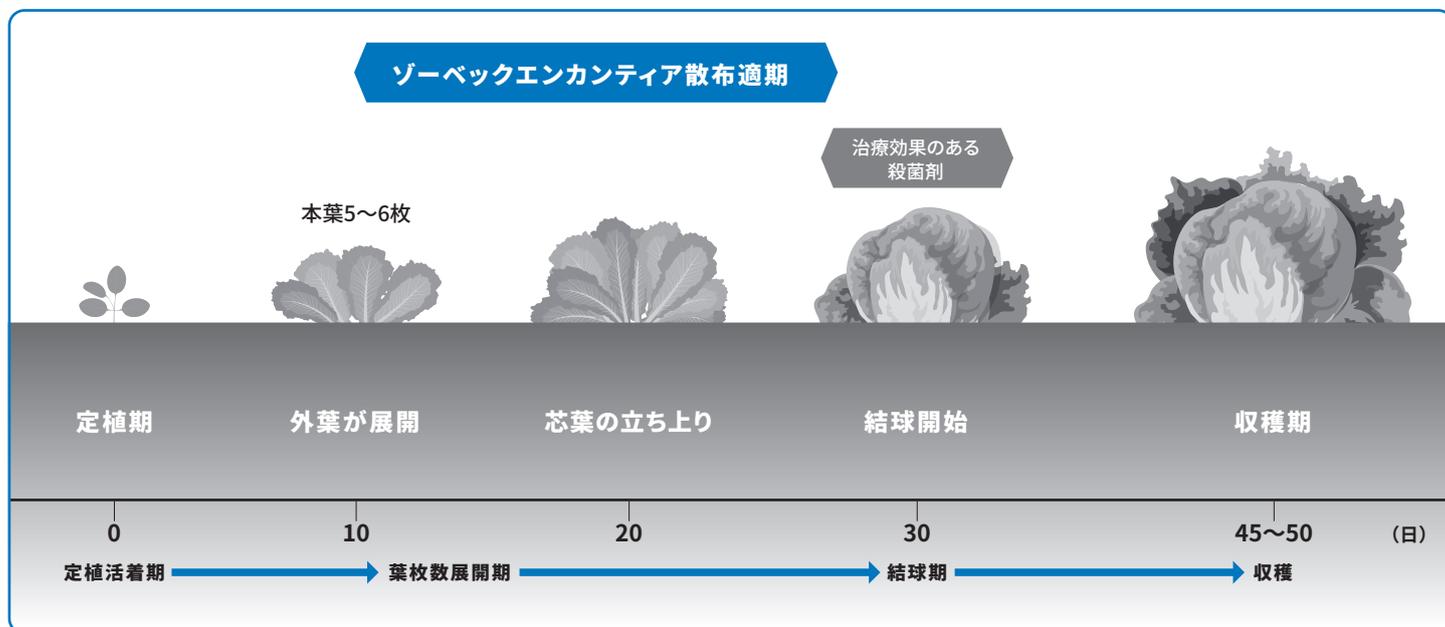
疫病菌・べと病菌に対する基礎活性が高く、また病原菌生活環における様々なステージに作用します。そのため、病気の発生しやすい条件の中でも安定して優れた防除効果を発揮します。また、感染前の予防的な散布が基本ですが、悪天候(荒天、連続的な降雨など)や他の管理作業のためやむをえず最適な防除タイミングを逃してしまった場合でも比較的安定した効果が期待できます。

■適用病害と使用方法

2022年6月現在

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	オキサチアピプロリンを含む農薬の総使用回数	ファモキサドロンを含む農薬の総使用回数
ばれいしょ	疫病	2000倍	100~300ℓ/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内	4回以内
		500倍	25ℓ/10a					
		32倍	1.6ℓ/10a					
		64倍	3.2ℓ/10a					
レタス	べと病	4000倍	100~300ℓ/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内	2回以内
非結球レタス								
はくさい				収穫14日前まで				

■推奨する使用時期(レタス)



■効果・薬害等の注意

●使用前によく振って、薬液が十分懸濁されていることを確認してから使用してください。●使用量に合わせ薬液を調整し、使いきってください。●アルカリ性農薬との混用はさけてください。●散布液調製後はできるだけ速やかに散布してください。●使用液量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び使用方法に合わせて調節してください。●散布にあたっては、風向きなどに注意し、薬液が周辺の作物に飛散してかからないように十分注意してください。●過度の連用をさけ、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせ使用してください。●耐性菌管理の観点から、育苗期間中は本剤を使用しないでください。●ばれいしょに対して希釈倍数500倍で散布する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型・速度連動式地上薬剤散布装置を使用してください。●本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意事項を守ってください。①散布は各散布機種別の散布基準にしたがって実施してください。②散布機種に適合した散布装置を使用してください。③散布中、薬液が漏れないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行ってください。④散布薬液の飛散によって動植物の被害や自動車の塗装等に被害を与えるおそれがあるなど、各分野に影響があるので、散布区域内の諸物件に十分留意してください。●本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

■安全使用上の注意

●誤飲などのないよう注意してください。●散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換してください。●作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。●かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。●虫に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。●使用残りの薬液が生じないように調整を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。●直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管してください。

■耐性菌管理方針

殺菌剤分類 49, 11

- ラベル記載の薬量(希釈倍数)を遵守し、推奨する散布間隔(7~10日)を守って使用してください。
- 栽培期間の前半に使用してください。防除の序盤に使用することでゾーベックエンカンティアによる作物保護効果を高めつつ、病原菌が薬剤に暴露される機会を制限することができます。
- 異なる作用機構を持つ、疫病・べと病に有効な殺菌剤と体系で使用してください。
- 病徴が発現する前に予防的に使用してください。

病原菌に対して特異的で単一の作用点を持つ殺菌剤については特に、突然変異等の要因により感受性の低下した菌や耐性菌が発生し、防除効果の低下につながることがあります。殺菌剤耐性菌管理の戦略は、病原菌のみならず殺菌剤側としてのリスクも考慮する必要があります。耐性菌発達の危険度が高いと分類される病原菌に起因する病害に対し、耐性菌発達危険度の高いと考えられる薬剤を用いる際には、特に注意が必要です。

Corteva AgriscienceはFRACメンバーでその活動を全面的に支持しており、前記のゾーベックエンカンティア耐性菌管理方針は上述した考え方に則って作成されています。

FRACに関する参照サイト

- (1)Fungicide Resistance Action Committee (FRAC) ウェブサイト(英語) <http://www.frac.info/home>
- (2)Japan FRAC 殺菌剤耐性菌対策委員会 ウェブサイト(日本語) <http://www.jcpa.or.jp/labojfrac/>

●ラベルをよく読んでください。 ●記載以外には使用しないでください。 ●小児の手の届く所には置かないでください。 ●空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。 ●防除日誌を記帳しましょう。

製造

コルテバ・アグリサイエンス日本株式会社

〒100-6110 東京都千代田区永田町2丁目11番1号 山王パークタワー

<https://www.corteva.jp/>



取扱

本資料は2022年6月現在の知見に基づき、作成されています。